

# 2008年度農業施設学会シンポジウム

## 食の安心・安全とユビキタス社会

### ～伝えられますか？ ITで食の安心・安全～

農産物や食品の生産から消費までには加工、流通、卸売り、小売りなど多くのプロセスが介在し、複雑な経路を辿り、誰が安全を担保するのが曖昧になるケースが見られます。農林水産省では、トレーサビリティシステムの普及を促進するための、牛肉に関しては生産工程履歴JASなどの制度や「ユビキタス食の安心・安全システム開発事業」などを推進し、食の安全を確保するため、ITを活用したシステム構築を行っています。今後も生産から加工、流通、消費までの安全性を確保するためのシステム作りは重要な課題となります。農業施設学会では、農産物や食品の衛生管理、品質管理への取組みに関する研究を行っています。農場段階での食の安全に対する意識が高まっている昨今、食品産業との連携が不可欠であり、その一環として、食の安心・安全シンポジウムを開催します。食の安心・安全とユビキタスをテーマに第一線で活躍されている専門家の皆様からお話を頂くことに致しました。

ご多忙中とは存じますが、万障お繰り合わせの上ご参加くださいますよう、お願い申し上げます。

1. 日時： 5月27日(火) 13:00～16:00
2. 会場： 東展示棟内セミナー会場B (国際食品工業展会場内に設置)  
FOOMA JAPAN 2008 (東京ビックサイト)
3. 定員： 先着90名まで
4. 講演内容：(予定)  
13:00～13:10 開会挨拶 五十部誠一郎 農業施設学会副会長  
13:10～13:50 ①ユビキタス食の安心・安全システムはどこまで進んだか？  
大松重尚 技術顧問 日本トレーサビリティ協会  
13:50～14:30 ②食品産業における情報技術最前線  
～トレーサビリティからユビキタスまで～  
杉山純一 室長 (独)食品総合研究所  
14:30～15:10 ③豚の個体識別管理とトレーサビリティ  
米山俊雄 副事業部長 日本ハムビジネスエキスパート(株) 東京開発事業部  
15:10～15:50 ④ITに必要な食の安全情報とは？  
日佐和夫 教授 東京海洋大学大学院海洋科学技術研究科  
15:50～16:00 閉会挨拶 農業施設学会常任理事 池口厚男  
ナビゲーター 守田和夫 教授 鹿児島大学農学部
5. 主催： 農業施設学会
6. 共催： かごしま産学官交流研究会食の安心安全部会
7. 後援： 日本食品機械工業会
8. 問合せ先： 農業施設学会シンポジウム担当 Tel:029-838-8678

(担当：石田<ishida32@affrc.go.jp>)

お申込み方法・・・下欄にご記入の上本紙をFAXにて送信下さい。

農業施設学会シンポジウム担当 宛 FAX：029-838-8719  
「食の安心・安全とユビキタス社会」(2007年5月27日開催)参加申込書 (締切り 5月19日)

御社/団体名					
御住所	〒				
TEL		FAX		E-Mail	
御芳名				所属/役職	
御芳名				所属/役職	